

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 10月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年10月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍もようやく終わりが見えてきたように感じます。苑でも少しずつ規制をゆるめ、時間制限と人数制限はありますが、居室で水入らずの面会の時を過ごして頂けるようになりました。ご家族の笑い声に安心されたような利用者様の姿を拝見するとやはり「家族様の愛」には勝てないと感じます。でも私達も第2の家族です。いつも利用者様の安全と幸福を願いながら日々どんな小さな訴えも聞き逃さずしっかり心と目を開き、お側に寄り添い支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのぼの苑長東の特徴的な取り組みは、事業所が地域と活発に交流している点と、働きやすい職場づくりが介護職員の意欲を向上している点である。事業所は日ごろから地域住民や地域で活動している団体と、交流や合同行事を開催し、登下校する小中学生の見守りを行い地域密着型施設の特性を活かした運営を行っている。また、職員同士の人間関係や代表者と施設長、介護職員の良い関係構築にも取り組んでおり、各職員が家庭を大切にしながら仕事が続けられる様に、休暇を取得しやすい職場づくりを行っている。これにより、職員が意欲的に職務に取り組み、会議やケアカンファレンスで積極的に発言をすることや、利用者への適切なケアの検討をする際の意見として役立てられ、サービスの向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に理念を唱和することで職員一人一人が理念に基づいたケアすることへの意識づけができています。	事業所は、立ち上げ当時の職員から意見を聴取して理念をつくり、施設長が日々のケアで理念を行動として現し、可視化することで職員の理念への理解や実践につながるように工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	開所当初から町内会へ入会し、地域行事(運動会、町内清掃、子供みこし等)への誘いも多く、できるかぎり参加させて頂いている。地域の方々や近所の方との関係も良好で野菜を収穫される時はおすそ分けを頂いたりといい関係性が保てている。	地域の代表者や民生委員、地域で活動をしている団体の事業所への訪問や交流があり、地域で開催される行事の情報提供や参加の誘いがある。事業所は小中学校の通学路に面しており、利用者は窓から手を振り登下校を見守っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる場所の確保に努めていたが、コロナ禍後より、中止している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、知見を有する方をゲストとしてお招きし、学ぶ場を設けている。会議では、報告や情報交換だけでなく、会議メンバーからも率直な意見をもらい、そこでの意見がサービスの向上につながったこともある。	コロナ禍では、照会により聴取した意見をもとに報告書を作成し、関係者に配布している。運営推進会議の意見から、外出機会の取り入れや回数を増やす要望があり、利用者家族と連絡調整しながら日々のケアで実現できるように取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議時には、地域包括支援センター職員に出席して頂き、事業所の状況を伝え、情報を共有している。介護保険課は、介護報酬改定時など制度について分からない事があれば適宜質問している。	地域包括支援センターから、複雑な課題を抱える利用者の利用について相談が多くあり、地域包括支援センターの職員と相互に協力し利用を支え地域課題の解決に取り組んでいる。運営基準について不明な部分は市の担当課に直接問い合わせ確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会のメンバーが中心となり、新人研修及び定期研修を開催し、身体拘束をしないケアへの正しい理解と実践に努めている。また、エアコンがいない時期は、玄関を無施錠とし、安全を確保しつつ開放的な空間を提供している。	身体拘束に関する研修では、身体拘束が利用者の心身に及ぼす影響について正しい知識を習得できる機会を設けている。グレーゾーンについては、身体拘束適正化委員会で検討した内容を職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新人研修も含め、定期的に研修会を開催し、虐待防止の理解と自分自身の介護を見つめ直す場としてとらえている。また職員の対応で気になることがあれば、皆で話し合う場を設けている。	/	/
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年1回は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性がある家族様には、制度の概要を説明し、活用できるよう準備を整えている。	/	/
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、分かり易く説明を行う事を心掛けている。また契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得されるまで話しあっている。	/	/
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から利用者様の思いに耳を傾け、できる限りの希望に添えるようにしている。家族様には、面会や電話連絡の際、様子をお伝えし、さらに家族様の思いもお聞きしながら多くの意見や要望を頂けるように配慮している。	利用者の意見は、日々生活する中で、自由に表出しており、家族の意見は利用者の様子を事業所から随時報告する際に確認している。土日面会の要望が複数あり、職員の勤務を調整し要望に応じている。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、普段から積極的に職員とコミュニケーションを図り、職員が思いを伝えやすい職場となるよう努力している。又、月1回のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	代表者、統括施設長、施設長が毎月の会議に出席し、職員の意見を直接聞く機会があり、出席者全員が意見を表出できるように、事前に会議に参加する事の意義や目的を伝え動機づけを行っている。働き方の希望や長期休暇なども職員の意見を反映し実現した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、職員の処遇へ反映している。今年度も全職員の給与が改定されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、職員に必要な研修を受講させ、職員の質の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と交流ができるようにネットワークに加入し、必要に応じて参加し、情報交換している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安なこと、施設に対する要望はないかなど本人様の声に耳を傾けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前や入所時は、家族様としっかり対話し、不安なこと、施設に対する要望はないかなど家族様の声に耳を傾けるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>施設見学及び相談時には、本人及び家族様の実情を把握し、何を望んでおられるのか見極めるようにしている。その中で、対応が難しければ、他のサービス利用のアドバイスをしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中でともに過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入所されても本人様と家族様の関係性が途切れず、よい関係性そのまま継続できるように努力を重ねている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入所されてもいままで培って来られた人間関係を断ち切らないように絵手紙のやり取りや面会に来ていただくなど関係が途切れないように心掛けている。</p>	<p>コロナ禍では、利用者からの要望で家族へ電話を取り次いだり、感染状況に応じて面会制限を緩和し、窓越しやビデオ通話を活用した面会継続の支援を行っている。食事を伴わない家族との通院や墓参りができるように支援することで、関係が途切れないように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者同士が愚痴を言いあったり、励まし合ったりとともに暮らしを支える仲間としてよりよい関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。他施設へ入所される際には、入所先へはこれまで知り得た情報を提供しこれまでの生活習慣が継続できるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、表情で思いをくみ取ったり、ご家族へ伺ったりと少しでも把握できるよう努めている。	利用開始時には、利用者のこれまでの暮らし方や思い、これからの暮らし方について家族から情報収集を行っている。利用開始後は利用者の表情や24時間の活動の様子と合わせ、ケアを提供した反応を観察しながら、課題となっている行動の要因を探り適切な介助方法の検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、ご家族にこれまで暮らしてこられた長い歴史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員全員が、お一人おひとりの暮らし方や心身状態を把握することを意識して行っている。また、本人のできる力を暮らしの中で発見するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを作成する際には、本人様にとってよりよい暮らしは何なのかを多職種で話しあい、その結果を基に作成している。ケアプラン作成後もモニタリングを繰り返しながら現状に即しているか確認をしている。</p>	<p>介護計画を見直す際は、3か月に1度のモニタリングによる目標達成状況と、家族に要望を確認している。医師や薬剤師、歯科医師、看護師からの意見を取り入れ、介護職員が提供できるサービスの中で、具体的で実現可能な目標設定を行うように工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>身近で支えている介護職員にケアする中で気づきを記録に留めるとともに毎月ケアプランの実施状況について記入してもらい現状の把握に努めている。必要に応じて都度見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人及び家族様のニーズに合わせて、インフォーマルサービスや医療保険サービスなどの活用も検討したりと介護保険のサービスだけにとらわれないようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>日頃から地域の民生委員や自治会長の方と積極的に交流を図り、地域の社会資源の把握に努め、必要となった時は、利用者様と社会資源を活用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前に、本人及び家族様の意向に応じ、かかりつけ医を決めている。内科については往診可能な当苑の協力医に変更される場合がほとんどである。他科の場合は、入所前に受診された病院を選ばれる方が多い。ともに適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用開始時に協力医療機関の医師による訪問診療が受けられること、これまでのかかりつけ医の継続も可能であることを説明している。通院する場合は家族に送迎や付き添いの協力を依頼しており、診療に必要な情報は文書や口頭で提供し、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、日頃から状態を細かく観察し、異常があればすぐに看護師に報告している。看護師はすぐに主治医へ必要に応じて受診するなど適切な処置が受けられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に本人様の情報を提供するとともに長期入院による本人及び家族様のストレス・負担を軽減する為、短期間で退院できるように病院関係者と話しあい、退院日を調整している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化した場合や終末期における指針を説明するとともにその時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。苑での看取りを希望された場合は、家族様・かかりつけ医・管理者・看護師・ケアマネージャー・介護職員で何度も話し合いを重ね、チームで連携しながら支援に当たっている。	利用契約時に重度化した場合における対応に関する指針について説明し、人生の最終段階を迎えた時期には、医療関係者や介護職員を含む関係者で協議している。緊急時や夜間看護職の配置のない時間帯の対応方法などは、事業所でできることを詳しく家族に伝えている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師が中心となり、定期的に研修を行い、全職員が慌てず適切な対応がとれるように訓練を重ねている。また日頃から不安に思う事は都度看護師にアドバイスをもらっている。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	一人一人の利用者様の状態を踏まえて、いざという時、慌てず確実な避難誘導ができるよう毎月防災訓練を行っている。また、地域の自主防災会に属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害の発生に備えて、食料・飲料水・簡易トイレ・発電機・ライフジャケット・ポポンカスなどを備蓄している。	避難救出訓練は毎月実施し、日中想定1回と夜間想定を4～5回行っている。夜間想定避難訓練では、訓練の日程を調整し、夜勤を担当する職員が必ず訓練に参加できるように工夫している。豪雨や台風による土砂崩れや水害の避難について、机上で経路の確認を行うなど、有事に備えている。	



自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年1回以上は、高齢者の人格の尊重とプライバシーの確保について学ぶ機会を作り、理解を深めている。さらに日々の業務の中で気になることがあれば、上席の者と話しあう時間を設けている。	定期的に研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保について、正しい知識を習得する機会を設けている。利用者一人ひとりが日々の行事やレクリエーションに参加することを自己選択、自己決定ができるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から利用者様に積極的に話しかけ、なにげない会話の中から本人の思いや希望をくみ取るようにしている。言葉で十分に意思表示ができない場合は、表情を見ながら本人の希望や好みの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・食事・入浴時間も個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で衣服を選べる方には、その日着用する衣服を選んで頂いている。さらに2ヶ月に一度は、訪問理美容の方に来苑して頂き、本人様の好みの長さをお聞きし、希望に添っている。足腰がお元気な方は、近所の美容院へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食とも職員の手作りを基本とし、又利用者様の希望もメニューに反映させるようにしている。食事の下ごしらえ、片づけも利用者様と一緒にしながら食事が楽しい時間となるよう支援している。	誕生日は、利用者の食べたいものや好きなものが食べられる機会となっており、ステーキや揚げたての天ぷらのリクエストに応えている。季節を感じられる弁当や和菓子バイキング、昭和の雰囲気を出したレトロ喫茶を企画し、楽しむことができるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	1日の食事量・水分量を記録し、適切な 食事・水分量を提供している。又、その 中で残食が目立つ方には、代替品を用意 したり盛り付ける器を変えてみたりと工 夫を重ねている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行うとともに自立の 方も含め、仕上げ磨きを行い、清潔保持 に努めている。さらに定期的に歯科医に 往診して頂き、異常の早期発見に努めい る。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	利用者様毎に排泄記録を基に排泄パター ンを把握し、可能な限りトイレで排泄が 行えるよう意識し取り組んでいる。個々 の状態を把握し、早めにトイレへ誘導し たことで下着やパッドの使用数の減少な ど効果が現れたケースも多い。	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わ せてトイレに誘導し、排泄の失敗とパッ ト使用量を減らす取り組みを行ってい る。夜間の排泄が頻回であったり、立位 が不安定な利用者へポータブルトイレを 設置することで排泄の自立を支援してい る。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の食事の中に乳酸菌や繊維質のもの を多く取り入れたり、毎日、腸トレ体操 を行ったりと日々の暮らしの中で自然排 便を促すための工夫に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は、週2回を基本としているが、必 要があれば都度入浴できるようにしてい る。入浴時も少しでもくつろいだ気分で 入浴できるように入浴時間やお湯の温 度、好きな歌を一緒に歌いながらの入 浴など工夫している。	入浴を楽しめるように、安全面に配慮 し、利用者の心身状況に応じて、同性介 助や職員が二人で対応している。当日の 職員配置によって、希望に添えないこと もあるが、入浴回数を増やしたり、身体 保清が必要な場合は随時入浴を行えるよ うに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の睡眠時間を把握し、睡眠時間の短い方については日中に休息時間を多く作るなど睡眠不足が長く続かないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師を配置し、薬の飲み合わせや副作用について情報を共有し、確実に服薬できるように連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様それぞれの得意な事・好きな事を職員間で共有し、それらを活かせる場を提供し、自分らしく又日々の暮らしの中に楽しみ・張り合いができるよう配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見や紅葉狩り、美術館、ドライブがてら外食したりなど希望に応じて戸外に出掛ける支援を行っている。さらに家族様のご協力も得ながら時に自宅へ一時外出したり、墓参りにいったりと本人様の思いに添った外出にも力を注いでいる。	車椅子の利用者も県立美術館や、行き帰りの喫茶店に立ち寄ったりコンビニエンスストアでスイーツを選んで購入するなど、戸外への外出を支援している。桜の花見や紅葉狩りなどへ出かけ、季節を感じられるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、入所しておられる方で金銭管理ができる方はおられないが、事務所で保管し、必要時使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には、手渡ししている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関先には沢山の花を植え、各ユニットでは、毎月テーマを決め、利用者様と一緒に壁画を作成し、季節を感じて頂けるようにしている。共有の空間は、こまめに換気するとともに外が見えるようにカーテンを開けたりと開放的な空間で居心地よく過ごせるように努めている。</p>	<p>食堂では手作りの食事で調理される匂いが漂い、採光と照明で室内の明るさを調整している。廊下やリビングには、ソファを設置しており、一人で静かに過ごしたり、歩き疲れたら休む場所が確保されている。換気や掃除を定期実施し、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になりたいときは、無理強いせず、気のあう利用者様同士は隣席にしたりと一人一人がストレスなく過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で大事にされていた家具や置物、使い慣れた馴染みの物や家族写真を持参していただくように伝え、少しでも居室が自宅同様居心地のよい空間となるようにしている。</p>	<p>利用者一人ひとりが、事業所のどこでどのように過ごすかを選択し、決定している。居室には、自宅から持ち込んだ椅子やテーブル、写真立てや置物、趣味活動で着用した衣装など、思い入れのある品を置いて暮らせるように利用開始時から案内している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように広さを確保している。トイレは、ファンレストテーブルを設置したり、浴槽に入る事が難しい方には、シャワーキャリーを使用したりと安全安楽に生活できるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目( 東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に理念を唱和することで職員一人一人が理念に基づいたケアすることへの意識づけができています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	開所当初から町内会へ入会し、地域行事(運動会、町内清掃、子供みこし等)への誘いも多く、できるかぎり参加させて頂いている。地域の方々や近所の方との関係も良好で野菜を収穫される時はおすそ分けを頂いたりといい関係性が保てている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる場所の確保に努めていたが、コロナ禍後より、中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、知見を有する方をゲストとしてお招きし、学ぶ場を設けている。会議では、報告や情報交換だけにとどまらず、会議メンバーからも率直な意見をもらい、そこでの意見がサービスの向上につながったこともある。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議時には、地域包括支援センター職員に出席して頂き、事業所の状況を伝え、情報を共有している。介護保険課は、介護報酬改定時など制度について分からない事があれば適宜質問している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会のメンバーが中心となり、新人研修及び定期研修を開催し、身体拘束をしないケアへの正しい理解と実践に努めている。また、エアコンがいらぬ時期は、玄関を無施錠とし、安全を確保しつつ開放的な空間を提供している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	新人研修も含め、定期的に研修会を開催し、虐待防止の理解と自分自身の介護を見つめ直す場としてとらえている。また職員の対応で気になることがあれば、皆で話し合う場を設けている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年1回は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性がある家族様には、制度の概要を説明し、活用できるよう準備を整えている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、分かり易く説明を行う事を心掛けている。また契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得されるまで話しあっている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から利用者様の思いに耳を傾け、できる限りの希望に添えるようにしている。家族様には、面会や電話連絡の際、様子をお伝えし、さらに家族様の思いもお聞きしながら多くの意見や要望を頂けるように配慮している。		



自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、普段から積極的に職員とコミュニケーションを図り、職員が思いを伝えやすい職場となるよう努力している。又、月1回のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、職員の処遇へ反映している。今年度も全職員の給与が改定されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、職員に必要な研修を受講させ、職員の質の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と交流ができるようにネットワークに加入し、必要に応じて参加し、情報交換している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安なこと、施設に対する要望はないかなど本人様の声に耳を傾けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目( 西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前や入所時は、家族様としっかり対話し、不安なこと、施設に対する要望はないかなど家族様の声に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学及び相談時には、本人及び家族様の実情を把握し、何を望んでおられるのか見極めるようにしている。その中で、対応が難しければ、他のサービス利用のアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中でともに過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入所されても本人様と家族様の関係性が途切れず、よい関係性そのまま継続できるように努力を重ねている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所されてもいままで培って来られた人間関係を断ち切らないように絵手紙のやり取りや面会に来ていただくなど関係が途切れないように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者同士が愚痴を言いあったり、励まし合ったりとともに暮らしを支える仲間としてよりよい関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。他施設へ入所される際には、入所先へはこれまで知り得た情報を提供しこれまでの生活習慣が継続できるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、表情で思いをくみ取ったり、ご家族へ伺ったりと少しでも把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、ご家族にこれまで暮らしてこられた長い歴史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員全員が、お一人おひとりの暮らし方や心身状態を把握することを意識して行っている。また、本人のできる力を暮らしの中で発見するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを作成する際には、本人様にとってよりよい暮らしは何なのかを多職種で話しあい、その結果を基に作成している。ケアプラン作成後もモニタリングを繰り返しながら現状に即しているか確認をしている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b>  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	身近で支えている介護職員にケアする中での気づきを記録に留めるとともに毎月ケアプランの実施状況について記入してもらい現状の把握に努めている。必要に応じて都度見直している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人及び家族様のニーズに合わせて、インフォーマルサービスや医療保険サービスなどの活用も検討したりと介護保険のサービスだけにとらわれないようにしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b>  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の民生委員や自治会長の方と積極的に交流を図り、地域の社会資源の把握に努め、必要となった時は、利用者様と社会資源を活用している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b>  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前に、本人及び家族様の意向に応じ、かかりつけ医を決めている。内科については往診可能な当苑の協力医に変更される場合がほとんどである。他科の場合は、入所前に受診された病院を選ばれる方が多い。ともに適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、日頃から状態を細かく観察し、異常があればすぐに看護師に報告している。看護師はすぐに主治医へ必要に応じて受診するなど適切な処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に本人様の情報を提供するとともに長期入院による本人及び家族様のストレス・負担を軽減する為、短期間で退院できるように病院関係者と話しあい、退院日を調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化した場合や終末期における指針を説明するとともにその時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。苑での看取りを希望された場合は、家族様・かかりつけ医・管理者・看護師・ケアマネージャー・介護職員で何度も話し合いを重ね、チームで連携しながら支援に当たっている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師が中心となり、定期的に研修を行い、全職員が慌てず適切な対応がとれるように訓練を重ねている。また日頃から不安に思う事は都度看護師にアドバイスをもらっている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	一人一人の利用者様の状態を踏まえて、いざという時、慌てず確実な避難誘導ができるよう毎月防災訓練を行っている。また、地域の自主防災会に属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害の発生に備えて、食料・飲料水・簡易トイレ・発電機・ライフジャケット・プロパンガスなどを備蓄している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年1回以上は、高齢者の人格の尊重とプライバシーの確保について学ぶ機会を作り、理解を深めている。さらに日々の業務の中で気になることがあれば、上席の者と話しあう時間を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から利用者様に積極的に話しかけ、なにげない会話の中から本人の思いや希望をくみ取るようにしている。言葉で十分に意思表示ができない場合は、表情を見ながら本人の希望や好みの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・食事・入浴時間も個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で衣服を選べる方には、その日着用する衣服を選んで頂いている。さらに2ヶ月に一度は、訪問理美容の方に来苑して頂き、本人様の好みの長さをお聞きし、希望に添っている。足腰がお元気な方は、近所の美容院へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食とも職員の手作りを基本とし、又利用者様の希望もメニューに反映させるようにしている。食事の下ごしらえ、片づけも利用者様と一緒にしながら食事が楽しい時間となるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目( 西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量・水分量を記録し、適切な食事・水分量を提供している。又、その中で残食が目立つ方には、代替品を用意したり盛り付ける器を変えてみたりと工夫を重ねている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行うとともに自立の方も含め、仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。さらに定期的に歯科医に往診して頂き、異常の早期発見に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様毎に排泄記録を基に排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄が行えるよう意識し取り組んでいる。個々の状態を把握し、早めにトイレへ誘導したことで下着やパッドの使用数の減少など効果が現れたケースも多い。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の食事の中に乳酸菌や繊維質のものを多く取り入れたり，毎日，腸トレ体操を行ったりと日々の暮らしの中で自然排便を促すための工夫に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、週2回を基本としているが、必要があれば都度入浴できるようにしている。入浴時も少しでもくつろいだ気分で入浴できるように入浴時間やお湯の温度、好きな歌を一緒に歌いながらの入浴など工夫している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の睡眠時間を把握し、睡眠時間の短い方については日中に休息時間を多く作るなど睡眠不足が長く続かないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師を配置し、薬の飲み合わせや副作用について情報を共有し、確実に服薬できるように連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様それぞれの得意な事・好きな事を職員間で共有し、それらを活かせる場を提供し、自分らしく又日々の暮らしの中に楽しみ・張り合いができるよう配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見や紅葉狩り、美術館、ドライブがてら外食したりなど希望に応じて戸外に出かける支援を行っている。さらに家族様のご協力も得ながら時に自宅へ一時外出したり、墓参りにいったりと本人様の思いに添った外出にも力を注いでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、入所しておられる方で金銭管理ができる方はおられないが、事務所で保管し、必要時使えるようにしている。		



自己評価	外部評価	項 目( 西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には、手渡ししている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には沢山の花を植え、各ユニットでは、毎月テーマを決め、利用者様と一緒に壁画を作成し、季節を感じて頂けるようにしている。共有の空間は、こまめに換気するとともに外が見えるようにカーテンを開けたりと開放的な空間で居心地よく過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になりたいときは、無理強いせず、気のある利用者様同士は隣席にしたりと一人一人がストレスなく過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で大事にされていた家具や置物、使い慣れた馴染みの物や家族写真を持参していただくように伝え、少しでも居室が自宅同様居心地のよい空間となるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように広さを確保している。トイレは、ファンレストテーブルを設置したり、浴槽に入る事が難しい方には、シャワーキャリーを使用したりと安全安楽に生活できるように工夫している。		

V アウトカム項目( 西ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長束

作成日 令和5年11月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	独歩の利用者様に比べると車椅子利用者様は戸外へ出掛ける機会が少ない。	車椅子利用者様の戸外へ出掛ける機会を増やす。	ユニット毎に毎月外出リストを作成し、都度記載する。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。